

午後 試験

問 1

問 1 では、Web システムのセキュリティ対策を例にとり、委託業務の管理について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 2(2)は、本文で明記された通信仕様では、入力された文字列が UTM で検知できない理由について解答することを求めたが、“UTM には Web サーバに対する攻撃を検知する機能がない”といった、本文に示された明らかな点と無関係な脈絡のない解答が多く見られた。問題点を抽出する際には、設問の状況をよく理解して、技術的問題を読み取るようにしてほしい。

設問 4 は、他社の事例を基に、現状において不足している事項を考察して解答することを求めたが、既に実施済の項目を解答した例が多く見られた。新たな状況に対応するための情報セキュリティ対策を検討する際には、現状実施していることを十分に踏まえた上で、何が不足しているかを考察することが重要であることを理解してほしい。

問 2

問 2 では、検疫システムの特徴や検疫方式に関する基本的な知識について出題した。全体として正答率は低かった。

設問 3 は、(1)の正答率が高く、(2)の正答率が(1)に比べやや低かった。本問の設定では、二次感染の原因は IP 通信ができることにあることを明確に示唆しているため、設定された状況、D 社検疫システムで解決できる点、及び D 社検疫システムと Q 社検疫システムの仕組みの違いから読み取ってほしい。

設問 4 は、記述すべきポイントが不足している解答や、内容が具体的ではない解答が散見され、正答率が低かった。問題中の図表に記述された D 社検疫システムの仕様をよく読めば正解を導けるはずである。記述されている内容から、D 社 L2SW はどういうときに正常な隔離の制御ができなくなるかを把握し、その発生条件や構成を具体的に記述してほしい。

問 3

問 3 では、入退室カードと生体認証の 2 要素認証による入退室システムの導入と運用について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 2 イの“認証の精度”は、予想以上に正答率が低かった。正確性などの一般用語や様々な造語が散見された。認証の精度は生体認証に関する基本的な用語の一つとして知っていてほしい。

設問 4(2)では、“特例として入退室カードだけの認証を認める”という解答が散見され、正答率は低かった。セキュリティ強化のために 2 要素認証を採用しているのであるから、セキュリティレベルを落とさないために、入退室カードともう一つの要素を組み合わせた認証をまず考えてもらいたい。

問 4

問 4 では、決済サービスを提供する Web サイトにおいて考慮すべきセキュリティ対策、及び利用者が安全にサービスを楽しむための注意喚起内容について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 a は、選択式の穴埋め問題であるにもかかわらず、正答率が著しく低かった。文脈を読み取り、設問に記載されているほかの選択肢を検討すれば、ハードニングという単語自体になじみがなくても正答を得られたであろう。サーバ対策の基本とも言える項目なので、是非とも理解しておいてほしい。

設問 3 では PKI 技術の利用について問うたが、例えば(1)では“鍵マークは情報の安全な取扱いを保証する”など、SSL 通信を誤解している解答が少なからず見受けられた。サーバ～端末間の暗号化通信と、PKI 技術を用いた電子証明書によるサイト証明は、普及が進んでいる技術でもあるので、正確な理解に努めてほしい。